



『スパークス 日本株長期投資のすすめ』

スパークスの株式投資、株式市場などに対する見方を紹介するコラムです。

第36号(2008年11月28日)

「経営者の重要性」

先日、とある大学院のMBAコースで企業経営者によって行われた講義をまとめた本が出版されましたが、その中に弊社社長の阿部が行った講義も編集されていました。その他にも、日本を代表する企業経営者が、学生に対して哲学・考え方を語り、企業を経営するということを感じてもらおうという非常に面白く、考えさせられる内容になっています。そこで今回は、株式投資において重要な要素の1つと考えられる「経営者」について触れたいと思います。

株式投資において経営者の重要性を掲げている著名な投資家としては、バリュー投資と並ぶ2大スタイルの1つである成長株投資の祖フィリップ・フィッシャー氏とその影響を大きく受け、このSPARX Wayでも度々名前が登場しているウォーレン・バフェット氏が挙げられます。実際、フィッシャー氏は、「優れた投資対象である限り、その企業には必ず良い経営者がいます」と言っていますし、バフェット氏は、「経営者の資質について十分に検討する。正直で有能な人物、自分が尊敬の念を抱き、信頼できる人物が経営していなければならない」と言っています。

その二人に共通する投資の考え方は、過度な分散をせず将来に亘って高い成長力を維持できる企業へ集中投資し、長期で保有するというものです。もちろん、集中投資した銘柄の株価が大きく下落してしまうとそれだけ損失が大きくなってしまいます。また、誰にも分からない、企業の将来において高い成長力を維持できるかどうかを見極めるために、企業の舵取りを行う経営者というものが非常に重要になります。特に現在のような世界的に景気が悪化しつつあり、なかなか先が見えない状況にある中で、経営者は日々やる、やらないの取捨選択を行い、企業を進むべき方向に導かなければならないのです。そういう意味において経営者が持つ能力だけでなく、人柄も含めてどういう人間かを見なければ安心して集中投資し、長期で保有することなどできません。

弊社社長の阿部は、よく経営を登山に例えます。天気が良い、環境が良いときは目指すべき頂上が見えているので、安心してそこまで登れる。しかしながら、天気が悪くなる、環境が悪くなると山頂が見えなくなり、周りも全く見えなくなる。そういうときこそ経営者は、圧倒的なリーダーシップであそこに頂上がある、必ず頂上まで辿り着くのだと仲間を鼓舞し、一步一步着実に登り、導いていかなければならないと言います。

(注) 本コラムは、マネックス証券Web-Site「マネックスラウンジ」の「マネックスメール」に掲載されている「スパークス・アセット・マネジメントの『SPARX Way』」をもとにスパークスが作成したものであります。また、上記は株式投資に関して理解を深めていただくためのものであり、特定の有価証券を推奨しているものではありません。



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。